

英主席科学顧問が視察

タウンキャンパス 本学の最先端技術に関心



(前列左から)ロボットを説明する先川原室長、バランス博士、小宮学長

英国政府の各省庁の科学技術政策を統括する主席科学顧問として政府科学局 (Government Office for Science) の代表を務めるパトリック・バランス博士が10月9日、東京スカイツリータウンキャンパスのA R E A I (エリアワン) を視察した。

世界的展望を報告する職務がある。次のテーマを探るため、世界の有識者へのインタビュや最先端技術の視察を行う途次で、日本では英ケンブリッジ大在籍歴を持つ小宮一仁学長を指名。これを受けて小宮学長が、本学のロボットと人工知能 (A I) の技術を紹介するため博士をタウンキャンパスに招いた。

その後、セミナー室に移動。先川原室長が、世界デビューを果たしたばかりのパーソナルモビリティ「Ganglio (カングーロ)」や全方位移動

電動車イス、未来型自動車 (Hailu) など動画をで紹介した。バランス博士はセンサー技術や、自己位置推定と環境地図作成を行うS L A M技術、実用化・普及に必要な年数などについて多くを質問。視察後、博士は「素晴らしい。大変勉強になった」と感謝の言葉を残し、タウンキャンパスを後にした。今回、博士が日本で視察した施設は、本学と、介護ロボット導入に積極的な老人ホームの2カ所だけ。本学の科学技術のレベルの高さが示された訪問だった。